

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397200078		
法人名	社会福祉法人 貞徳会		
事業所名	ガーデンホーム赤目(西ユニット)		
所在地	愛西市赤目町山之神80		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

各居室にトイレ(ウォシュレット付)を設置しており、気兼ねなくトイレを使用できる利点があり、プライバシーに配慮した運営を心掛けている。又利用者のバックグラウンドを重視し、役割を各個人で持ってもらう生活を営んで頂く。ピザ釜・畑・果樹園を一体化した敷地を整備し、個々の利用者に役割と沖がいのある生活を営んでもらうようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397200078-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397200078-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームでは、ユニット毎に職員で検討を重ねながら、おしゃれの支援や行きたい場所への外出等、一人ひとりの思いや意向に合わせた支援に取り組んでいる。ホームは、広い敷地とゆったりとした空間を確保しており、開設以来、設備面の整備を段階的に行っている。今年度は、庭の整備をほぼ終え、ピザ釜をはじめ、テラスで過ごす時間をつくる取り組みが行われている。ホームのユニットの真ん中のスペースには、母体が寺院であることから大きな仏壇が設置されてある。毎朝、両ユニットの利用者が集まって一緒にお経を唱えており、利用者の生活習慣にもつながっている。また、ホーム独自の取り組みとして、業務用の大型洗濯機の設置を行っており、定期的な布団の洗濯等が行われている他、入浴後には、利用者に自分の洗濯物を洗濯してもらうように、ユニット毎に3台以上の洗濯機を設置している。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年3月4日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるよう、掲示しケアに反映できるよう努力している。	共通理念でもあるノーマライゼーションを基本に、グループホームの視点として「その人らしく」を基本とした支援に取り組んでいる。理念をホーム入口に掲示を行っており、地域の方や家族にも分かるように伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はまだ少ないが、定期的な慰問や、自宅で取れた野菜等の差し入れがある、また、本部の行事に参加し、交流する機会を持っている。	ホームには地域の方が野菜や古道具類を持って来てくれることもあり、地域の方との交流が徐々に深まっている。また、中学生や高校生の受け入れも行っており、地域貢献に取り組んでいる。	ホーム内には「地域交流スペース」をつくっているが、十分に活用されていない現状もある。地域の方への理解を深めてもらい、徐々に交流が深まっていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験の生徒を受け入れており、認知症の理解をしてもらうよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後議事録をスタッフ一同で回覧し、ケアに取り入れるよう努力している。	会議では、写真や細かな報告を掲載した資料に基づきながら報告しており、出席者への理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議には、複数の地域の方の参加が得られており、地域の方との情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課と常に情報を交換し、意見、助言を頂いている。	市内の介護事業所が集まる連絡会にはホームからも出席しており、定期的な情報交換につながっている。また、法人を通じて研修会等の案内があった際には、ホームからも出席するように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを職員一同理解しており、利用者の行動を止めるのではなく一緒に行動するケアに取り組んでいる。	ホームは身体拘束を行わない方針のもと、玄関やユニット入り口に施錠を行っておらず、職員による見守りと外出等が行われている。また、法人で実施されている研修会には、ホームからも出席し、職員の振り返りの機会もつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部の委員会に参加し、情報を職員一同共有し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員で話し合いを持ち関心をもち理解する様努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項の説明をし十分な理解と納得をしてもらい締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時・家族会開催時家族の意向を伺う努力をしている。	ホームでは、年2回の家族会を通じた交流の機会がつくられている。玄関に意見箱を設置しており、意見等の把握に取り組んでいる。また、毎月の法人の便りの他にも、利用者毎の個別の便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議・ユニット会議等を通して意見や提案を聞き入れる努力をしている。	ホーム全体とユニット毎の会議が行われており、意見等については、管理者、リーダーを通じて、法人の職員会議の場へも報告されている。また、法人代表者にホームで昼食を摂ってもらう取り組みを継続しており、直接、意見を交わす機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションを上げるよう、話せる機会を取り入れるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部内研修。外部研修を積極的に取り入れるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所との交流に参加し、情報交換の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人・家族との情報収集に努め信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時・相談時に家族の困っている事、不安又は希望を伺いそれらを解消出来るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族とよく話し合い必要とする支援を見極め、職員一同共有できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野を活かせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料請求時等に本人の様子を送ったり、面会時に日常の様子を報告する様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会がある。昔の写真等を持ってきていると一緒に写真を見て思い出話を聞いている	利用者の友人、知人との面会や外出の機会がつけられ、家族と喫茶店に出かけている方や自宅に戻って一緒に過ごしている方がいる。また、法事で集まった利用者の親族がホームに訪問し、交流スペース等も活用して、交流の機会もつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間(レベルも含め)の関係を大切にする支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ。相談、助言を行い支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に関心を持ち、話し合い ケアプランとして検討している	職員全員で利用者の把握に取り組んでおり、把握した情報については、管理者が毎月メッセージを書いており、思いや意向等の把握につなげている。また、日常の申し送りノートの活用に取り組んでおり、職員間の情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人・家族から詳しく聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し記録として残している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望に添うようにするため、毎月職員間で話し合い、ケアプランとしている。	介護計画は、6か月から1年で見直しており、その方の計画内容を職員にも分かるように、コピーを見てもらっている。また、家族との面談の機会をつくり、家族と会えない場合は、自宅へ訪問する機会もつづけている。	職員間で計画内容の把握を行いながら、定期的な見直しとモニタリングにつながるように、日常的なチェックを行うような様式類の工夫や取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録を基に介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院・薬の受け取り・入退院の付き添いなど、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仲の良かった友人たちが面会に来られ、会話が弾んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関へ必要に応じ情報提供し受診できるようにしている。	協力医とは、ホームからの受診支援の他にも、母体の特養に毎週の訪問診療が行われているため、ホームとの情報交換にもつながっている。また、特養の看護師がホームに訪問しており、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ、本部看護師に連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じ、提携医療機関と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合本部特養への連携、医療行為が必要となった場合提携医療機関との連携等家族と話し合い取り組んでいる。	ホームとしては終末期の支援についても前向きに考えているが、現状は、母体に特養があることもあり、重度の方の特養への移行が行われている。家族も特養希望の方が多いこともあり、段階的に話し合いながら、ホームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本部での研修や、マニュアルの整備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・本部の協力で、色々な場面を想定し利用者、職員で避難訓練を行っている。	ホームの避難訓練は、ホーム内への浸水も想定し、2階に上がる訓練も行われている。地域の方への働きかけの他にも、母体の特養との非常時の連携を深める取り組みも行われている。また、備蓄品については、母体の特養に確保されている。	備蓄品については、特養まで取りに行けないことも想定して、ホーム内にも確保することを期待したい。また、ホームに広いスペースが確保されているため、地域の方との相互の協力関係の構築にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や対応には十分配慮する様心がけている	ホームでは、職員への接遇面での指導と意識向上について、継続的に実施しており、研修会への参加や日常的な注意喚起にも取り組んでいる。また、排泄時の声かけ等、プライバシーへの配慮にも取り組んでいる。	職員に対する接遇面での研修、指導に取り組んでおり、職員の意識向上がすすめられている。定期的な振り返りの機会をつくることで、より良い対応につながることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、傾聴により、本人の思い、気持ちを理解するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた生活をしていただくように声掛けを頻繁にし気持ちの把握に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望されたらカットや毛染め等を行い、衣類も本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取り、野菜の皮むきなど出来る事をやってもらっている。配膳・下膳も出来るだけ自分でやってもらっている	メニューについては、職員が利用者にも聞きながら作成している。配膳についても、カゴを活用することで、転倒防止につなげ、利用者の出来ることをつくる取り組みが行われている。また、おやつ作りや季節に合わせた行事食等、利用者の楽しみもつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量等を記録に残し、健康状態に応じて形態を替え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回声掛けし、見守りや介助等をここに合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	素振りが見えたら、声掛けし誘導している。	トイレが各居室に設置してあるため、職員は一人ひとりの排泄チェックを行いながら、トイレでの排泄に取り組んでいる。ベッドとトイレの位置の工夫も重ねながら、オムツだった方が紙パンツになり、トイレで排泄できるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多く摂ってもらえるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は選べないが、強制はせず、時間や日をずらして対応している。	ホームでは、入浴の準備を毎日行っており、入浴は1日おきであるが、時間は夜間も対応しており、その方に合わせた入浴に取り組んでいる。また、重度の方には職員複数での介助が行われている他、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や消灯時間は特に決めておらず強制もしていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を把握し、状況把握し看護師と相談し調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来ること、TV・お経・体操等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じての外出や散歩等を利用者と話し合い実施している。	ホームでは、日常的に外出するよう取り組んでおり、少し離れた場所にある法人本部へ利用者と行く等、外出の機会をつくっている。また、季節に合わせた外出の他にも、その方の意向にも合わせて、おやつを買いに出かける等の機会もつくっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や、買い物など利用者の希望に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を手作りしたり、希望で電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファーやウッドデッキで過ごされたり、思い思いに過ごせるよう配慮している。	ホーム内は広く、採光にも優れた環境である他、庭も広く、テラスや畑もあり、圧迫感のない生活環境の提供が行われている。また、ホーム内の壁には、利用者の作品や行事の際の写真等が飾られてあり、あかるい雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファーを置き、ウッドデッキには椅子を置き、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真等を飾ったり、家族にはなじみの日用品等の持ち込みも依頼している。	居室には、ベッドと収納スペースの設置の他にもトイレが設置されており、プライバシーにも配慮している。また、意向にも合わせ、利用者の好みの座椅子を持ち込んでいる方や、家族の写真や作品等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来ることをやって頂ける様職員全員が見守りし、安全に行えるよう支援している。		